

# 防災へり活動再開時における本県の課題

課題	検討の視点	備考（対応策の例等）
1 安全性を考慮した再開手順	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 安全を第一に考えた活動の再開に向けて、規程類の整備や隊員の確保・訓練の実施なども含めて、どのようなロードマップを設定すべきか。</li> <li>➤ 安全運航管理責任者が担う役割は何か。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 安全運航が確認された後に、難度の低いものから段階的に活動範囲を展開（林野火災→転院搬送等→救助活動）。</li> <li>➤ 安全運航管理責任者の監修により訓練計画を作成し、訓練を実施するほか、再開に当たっては活動範囲の段階ごとの見極めを実施。</li> </ul>
2 継続的な安全対策の改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 安全性の向上のため、一過性に終わることなく継続的に安全対策を改善していく必要があるが、どのような仕組みが望ましいか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 帰投後の確認（毎回）、安全運航会議（月1回）、第三者も加えた運航協議会（年1回）を実施し、改善点を規程等に反映させるなどP D C Aサイクルを構築。</li> </ul>
3 パイロットの確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 航空業界全体における慢性的な操縦士不足という状況の中で、どのように技量のあるパイロットを確保していくか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 委託業務の中で訓練時間を確保し、運航受託会社と連携して操縦士を養成。</li> </ul> <p>（例）運航受託会社の操縦士が新機体に対応するための必要資格取得の支援</p>